

科 目 名	臨床看護学特論Ⅰ（がん看護学領域）			担当教員：○玉井 なおみ 木村 安貴	
科目名（英語）	Oncology NursingⅠ				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	1～2	看研5 3研2-12 (玉井なおみ) (木村 安貴)	火曜日・金曜日7限

1. 授業の概要：

がん看護学領域では、がんサバイバーシップの概念を基に、がんの診断時期から終末期まで、がんとともに生きる人々とその家族の体験を広い視野から理解し、全人的ケアおよび沖縄のケアリング文化に根ざした看護実践の土台となる理論や概念を探究する。

2. 到達目標：

がんとともに生きる人々とその家族の体験を理解し、がん看護の実践の土台となる理論や概念を学び、看護実践や研究上の課題について探究できることを目標とする。

3. 授業の計画と内容

第1週

がんサバイバーシップの概念と患者理解1

(玉井なおみ)

第2週

がんサバイバーシップの概念と患者理解2

(玉井なおみ)

第3週

がんの診断と病態分類：発がん・再発・転移

(木村 安貴)

第4週

がんの治療と病態生理

(木村 安貴)

第5週

がんサバイバーシップの心理的問題1

(玉井なおみ)

第6週

がんサバイバーシップの心理的問題2

(木村 安貴)

第7週

がんサバイバーシップの疫学的問題1

(玉井なおみ)

第8週

がんサバイバーシップの疫学的問題2

(木村 安貴)

第9週

がんサバイバーシップの医学的問題

(木村 安貴)

第10週

がん患者と家族の体験理解1：危機理論，悲嘆理論

(玉井なおみ)

第11週

がん患者と家族の体験理解2：全体性パラダイムに基づく理論

(玉井なおみ)

第12週

がん患者と家族の体験理解3：全人的ケアとケアリング文化

(玉井なおみ)

第13週

緩和ケア・終末期ケアの概念と看護師の役割機能1

(外来講師：吉澤 龍太)

第14週

緩和ケア・終末期ケアの概念と看護師の役割機能2

(木村 安貴)

第15週

まとめ

(玉井なおみ、木村 安貴)

4. テキスト：

Kenneth D. Miller(2010)／勝俣範之 監訳（2012）：がんサバイバー 医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす，医学書院

参考文献：必要に応じて国内外の最新の学術論文を資料として配布する。

5. 準備学習：

毎回，課題を提示するので，次回までに準備すること。

6. 成績評価の方法：

・活動状況50点（評価視点：授業へのコミットメント，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切さ）

・レポートの内容50点（評価視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切さ，文献活用の適切さ）

・合 計 100点満点

7. 履修の条件：

特になし

8. その他：

授業は講義とゼミナール方式で行う。事前学習を行い参加すること。

科目名	臨床看護学特論 I (高齢者看護学領域)			担当教員：永田美和子	
科目名 (英語)	Gerontological Nursing I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	1～2	研 421	講義終了後
1. 授業の概要： 高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化と生活への影響について探究する。また、少子高齢化の国内外の高齢者をとりまく様々な状況を理解し、複雑で多様な健康障害をもつ高齢者の健康と生活の質を高めるための援助について、文献抄読、事例検討などを通して検討し探究する。 2. 到達目標： ① 国内外の高齢者をとりまく様々な状況を理解できる。 ② 認知機能低下を持つ高齢障害者の機能障害に関連した最新の看護実践に必要な理論・技術について理解できる。 3. 授業の計画と内容 第 1 週 ガイダンス 第 2 週 国内の高齢者を取り巻く状況 第 3 週 海外の高齢者を取り巻く状況 第 4 週 高齢者看護学における主要な概念・理論・モデル 第 5 週 高齢者看護学の歴史 (実践・研究・教育) 第 6 週 老化の概念と学説 対象理解と捉え方 第 7 週 高齢者の健康と生活の質① 第 8 週 高齢者の健康と生活の質② 第 9 週 高齢者の心理 第 10 週 高齢者の発達課題 第 11 週 高齢者と社会 第 12 週 高齢者と地域文化 第 13 週 高齢者と地域包括ケアシステム 第 14 週 高齢者と倫理 第 15 週 まとめ 4. テキスト： 参考文献：授業の中で、適宜紹介する。 5. 準備学習： 授業は、主体的に学習する姿勢・態度が求められる。プレゼンテーションは、事前に課題を探究し、理解した内容を他者に伝えるように工夫して資料を作成し、発表すること。討議では、プレゼンテーションの内容を踏まえ、内容の理解を深めるとともに、建設的な意見を発表し、積極的に討議すること。 6. 成績評価の方法： ・プレゼンテーション 50 点 (評価視点：事前学習・資料作成の努力、問題発見・解決の努力、発表の適切さ、討議への参画度) ・レポートの内容 50 点 (評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ) ・合 計 100 点満点 7. 履修の条件： 特になし 8. その他：					

科 目 名	臨床看護学特論Ⅰ（母性看護学領域）			担当教員： 小西清美、島田友子	
科目名（英語）	Advanced Maternal and Family NursingⅠ				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2～3	看研7	金曜日、6限目
1.授業の概要： 母性看護学の対象である将来出産を迎える思春期女性、妊産褥婦、更年期女性等の特性と健康課題を理解する。女性や母性の健康課題を解決するための理論や方法論について、文献・事例検討を通して探究する。					
2.到達目標： ①女性に生じているさまざまな健康課題を理解する。 ②周産期女性における健康課題を理解する。 ③女性や母性における健康課題について文献検討し、研究課題が探究できる。					
3.授業の計画と内容 第 1 週 母性看護学特論Ⅰガイダンス、女性・母性の概念 第 2 週 女性の健康課題について（1） 第 3 週 女性の健康課題について（2） 第 4 週 産後ケア促進のための産後院システム構築について 第 5 週 産後ケア—なぜ必要か何ができるか—（1） 第 6 週 産後ケア—なぜ必要か何ができるか—（2） 第 7 週 出産前後の家族関係 第 8 週 女性と家族関係 第 9 週 母性看護領域の文献検討とクリテークについて 第 10 週 女性または周産期女性の健康課題に関する文献検討（1） 第 11 週 女性または周産期女性の健康課題に関する文献検討（2） 第 12 週 女性または周産期女性の健康課題に関する文献検討（3） 第 13 週 女性または周産期女性の健康課題に関する文献検討（4） 第 14 週 助産業務と助産倫理について 第 15 週 母性看護学特論Ⅰの総括					
4.テキスト：福島富士子、みつひひろみ：産後ケア—なぜ必要か何ができるか—、岩波ブックレット NO.896、520 円 参考文献： 各種母子関係学会誌 助産学会誌、母性衛生、小児保健、日本新生児学会誌、日本小児看護学会誌等					
5.準備学習： 授業は、講義、課題図書の検討、文献検討と質疑・討論を組み合わせで行う。課題図書、文献検討の場合は、学生が要約してから授業にのぞみ、パワーポイントあるいは資料を用いて、プレゼンテーションを討論する形式をとる。そのため討論のための文献探索とその文献の準備が必要となる。					
6.成績評価の方法： ・事前の資料準備と授業への参画度 70 点（評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ） ・課題レポートの内容 30 点（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ） ・合 計 100 点満点					
7.履修の条件： 特になし					
8.その他：					

科目番号	科目名	臨床看護学特論 I (小児看護学領域)		担当教員：松下聖子	
	科目名 (英語)	Child and Family Health Nursing I			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2～3	研 227	火曜日 5 限
1. 授業の概要： 子どもとその家族が置かれているさまざまな状況を理解し、特に子どもの倫理的側面として、児童の権利条約の理念に基づいた健康生活について探求し、子どもの生きる権利の擁護に関する課題と方法について探求する。また、関連領域の研究のクリティークを行い、小児看護学領域の研究の動向と課題を探求する。 2. 到達目標： 小児看護を実践していく上で必要な子どもと家族の健康問題について理解できる 医療や看護の場における子どもと家族の倫理について考え、現状の課題を明確にすることができる 小児看護学に関する動向について学ぶことができる 3. 授業の計画と内容 第 1 週 小児看護学特論ガイダンス 第 2 週 対象特性と小児看護の動向 第 3 週 小児看護と倫理 第 4 週 児童の権利条約 第 5 週 医療の場と子どもの倫理(事例検討) 1 第 6 週 医療の場と子どもの倫理(事例検討) 2 第 7 週 医療の場と子どもの倫理(事例検討) 3 第 8 週 小児看護研究の推移 第 9 週 小児看護関連の論文クリティーク 1 第 10 週 小児看護関連の論文クリティーク 2 第 11 週 小児看護関連の論文クリティーク 3 第 12 週 小児看護関連の論文クリティーク 4 第 13 週 小児看護関連の論文クリティーク 5 第 14 週 小児看護学を研究するとは 第 15 週 まとめ 4. テキスト： 参考文献： 講義の中で提示する 5. 準備学習： グループディスカッション形式で授業を進めるため、担当者は事前に資料作成・配布すること、配布された資料について各自で検討しておくこと 論文クリティークでは、必ず論文を事前にクリティークし、資料として配布すること 6. 成績評価の方法： - 事前の資料準備と演習への参画度（評価視点：課題学習の準備および提出状況、事前学習の内容） 50 点 - 終了レポートの内容（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、文献活用の適切性） 50 点 - 合 計 100 点満点 7. 履修の条件： 小児看護に興味がある者 8. その他： 授業は、ディスカッション形式ですすめるため、事前学習が重要となる。事前学習に十分取り組むこと					

科目名	臨床看護学特論Ⅰ（精神看護学領域）			担当教員：鈴木啓子	
科目名（英語）	Psychiatric and Mental Health Nursing I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2～3	看研 17(鈴木)	火曜日・金曜日 7 限

1.授業の概要：

精神看護学の実践の基礎となる対象理解のための基礎理論を学ぶ。精神の機能状態の評価方法について学び、看護介入の基本として、精神状態のアセスメント技術と対人関係技術を習得する。合わせて精神的健康に関する知識およびライフサイクルにおける対象者の心理・社会的問題、危機的状況における看護アセスメントについて学ぶ。

2. 到達目標：

①Bio-Psycho-Social モデルを用いた精神保健医療の理解ができる。

②対人関係論、精神力動看護論に基づき、治療的関係の展開と自我機能・防衛機制について理解を深める。

③精神疾患の病態や生理を理解し、最新の知識をふまえた治療および看護方法について理解を深める。

④ライフサイクルに沿って生じる人の精神的諸問題・危機について探求する。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	コースガイダンス・精神看護学の基盤となる諸理論
第 2 週	精神看護学に関連する制度や法律
第 3 週	精神看護学に活用できる理論・モデル総論
第 4 週	Bio-Psycho-Social モデル・エンパワメント・ストレングスモデル
第 5 週	対人関係論・精神力動理論（自我機能と防衛機制）
第 6 週	精神科薬物療法の現状と看護
第 7 週	自殺をめぐる問題と支援
第 8 週	感情障害の診断と治療 および看護
第 9 週	統合失調症の診断と治療および看護
第 10 週	適応障害・人格障害の診断と治療および看護
第 11 週	災害・事故・事件後の PTSD の診断と治療
第 12 週	精神的健康問題を抱えた人とその家族に関する文献検討1
第 13 週	精神的健康問題を抱えた人とその家族に関する文献検討2
第 14 週	精神的健康問題と看護に関する文献検討1
第 15 週	精神的健康問題と看護に関する文献検討2

4. 参考文献：

宇佐美しおり(2009)「精神看護スペシャリストに必要な理論と技法」日本看護協会出版会

野末聖香編著（2004）「リエゾン精神看護―患者ケアとナース支援のために」医歯薬出版株式会社

G.W.Start et.al.(2013)” Principles and Practice of Psychiatric Nursing”10th edition,MOSBY.

（安保寛明・宮本有紀監訳「看護学名著シリーズ―精神科看護―原理と実践」原著第8版）

5. 準備学習：各テーマに関する自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者相互によるディスカッションを行い理解を深める。毎回課題があるので、次回までに準備をすること。

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況（評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ）50 点
- ・レポートの内容（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ）50 点
- ・合 計 100 点満点

7. 履修の条件：特になし

8. その他：授業は講義とゼミナール方式で行う。事前事後学習を行い参加すること。

科目名	臨床看護学特論Ⅰ（在宅看護学領域）			担当教員：○大城 凌子，奥西 栄介	
科目名（英語）	Community CareⅠ				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	看研 13（大城凌子） 看護学科事務室（非常勤講師室）（奥西）	水曜日・7限 授業の前後 30 分ずつ

1. 授業の概要：

在宅看護学領域では、在宅看護学で活用される理論や看護モデルを学び、看護実践に活用する方法を学ぶ。
在宅での生活（暮らし）を支援する看護の役割と福祉の連携を目指し、社会福祉の視点を踏まえた在宅看護学への課題を探究する。

2. 到達目標：

1) 在宅看護学の歴史的発展が理解できる
2) 在宅看護に関連する法や制度を理解できる
3) 在宅看護学に活用できる理論やモデルを理解できる
4) 在宅看護の現状と課題を分析し、在宅看護研究や今後の看護実践の在り様について展望できる

3. 授業の計画と内容

第 1 週(4/19)	コースガイダンス・在宅看護研究の背景	(大城凌子)
第 2 週(4/26)	在宅看護の国内外の歴史的変遷と研究の動向	(大城凌子)
第 3 週(5/10)	在宅看護に関連する制度や法律	(大城凌子)
第 4 週(5/17)	在宅看護学に活用できる理論・家族看護モデル（プレゼン）	(大城凌子)
第 5 週(5/24)	ケアリング理論とヘルスプロモーション（プレゼン）	(大城凌子)
第 6 週(5/31)	パートナーシップと文化理論（レイニンガー看護論）	(大城凌子)
第 7 週(6/ 7)	ヘンリーストリートに学ぶ公衆衛生看護	(大城凌子)
第 8 週(6/14)	貧困に関連した国内外の健康課題	(大城凌子)
第 9 週(6/21)	シシリーソングダースとホスピスケア	(大城凌子)
第 10 週(6/28)	沖縄の文化とエンドオブライフケア	(大城凌子)
第 11 週(8/28)	社会福祉からみた高齢社会の変遷と現状	(奥西栄介)
第 12 週(8/28)	介護保険制度の新たな課題と方向性	(奥西栄介)
第 13 週(8/29)	地域を拠点にしたケアマネジメントのプロセス	(奥西栄介)
第 14 週(8/29)	施設におけるケアマネジメントのプロセス	(奥西栄介)
第 15 週(8/30)	事例検討：在宅看護の現状と課題分析	(大城凌子)
第 16 週(8/31)	地域在宅看護特論Ⅰのまとめ	(大城凌子)

4. 参考文献：

①近藤克則「健康格差社会への処方箋」 医学書院 2017.
②マデリン M.レイニンガー，「レイニンガー看護論—文化ケアの多様性と普遍性—」，医学書院
③Alison Morton-Cooper 訳 岡玲子他 ヘルスケアに活かすアクションリサーチ 医学書院 2005.
④Christie W. Kiefer 「文化と看護のアクションリサーチ」 訳 木下康仁 医学書院 2010..

5. 準備学習：毎回課題を出すので，次回までに準備をすること。

6. 成績評価の方法：

・授業への参画（討議への積極的参加，予習，課題発見，プレゼンテーション）	50 点
・レポート（この科目を学んで，学生自身の研究や今後の看護実践にどう生かせるかをまとめる）	50 点
計	100 点

7. 履修の条件：

特になし

8. その他：

※シラバスはクラスの状況、講義の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。

科目名	臨床看護学特論Ⅰ（公衆衛生看護学領域）			担当教員：田場真由美 宇座美代子(非常勤)	
科目名(英語)	Public Health Nursing I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	1～2	看研 15	火曜日・金曜日 7 限

1. 授業の概要:

個人・家族・集団・地域の健康レベル向上に関わる看護の理論および方法、保健医療福祉の連携とシステム化、地域の健康課題の解決に必要な社会資源の開発と施策化等について探求する。

2. 到達目標:

- ① 公衆衛生看護学の基本的理念の理解について深めることができる。
- ② 個人・家族・集団・地域の健康レベル向上に関わる看護の理論および方法の理解ができる。
- ③ 保健医療福祉の連携とシステム化、地域の健康課題の解決に必要な社会資源の開発と施策化等について理解ができる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週 4/9	コースガイダンス、公衆衛生看護学の概念	(田場真由美)
第 2 週 4/16	わが国の公衆衛生看護学の歴史	(田場真由美)
第 3 週 4/24 2 限	公衆衛生看護と理論①	(宇座美代子)
第 4 週 5/8 2 限	公衆衛生看護と理論②	(宇座美代子)
第 5 週 5/15 2 限	わが国の保健医療福祉の現状と課題①	(宇座美代子)
第 6 週 5/22 2 限	対象地域の保健計画と評価①	(宇座美代子)
第 7 週 5/28	アメリカの統治下における沖縄の公衆衛生看護の変遷	(田場真由美)
第 8 週 6/4	諸外国の公衆衛生看護学の歴史	(田場真由美)
第 9 週 6/11	わが国の保健医療福祉の現状と課題②	(田場真由美)
第 10 週 6/18	わが国の保健医療福祉の現状と課題③	(田場真由美)
第 11 週 6/25	対象地域の保健医療福祉の現状と課題①	(本村純/田場真由美)
第 12 週 7/2	対象地域の保健医療福祉の現状と課題②	(田場真由美)
第 13 週 7/9	公衆衛生看護と理論③	(田場真由美)
第 14 週 7/16	対象地域の保健計画と評価②	(本村純/田場真由美)
第 15 週 7/30	公衆衛生看護学Ⅰのまとめ	(田場真由美)

4. 参考文献:

- ① Karen Glanz, Barbara K. Rimer, Frances Marcurs Lewis, 曾根智史、湯浅資之、渡部基、鳩野洋子(監訳): 健康行動と健康教育-理論、研究、実践、医学書院、2014.
- ② エリザベス T.アンダーソン, ジュディス・マクファーレイン, 金川克子, 早川和生(監訳): コミュニティ・パートナー医学書院, 2009.
- ③ 津村智恵子, 上野昌江: 公衆衛生看護学 第2版、中央法規出版, 2012.
- ④ イチロー・カワチ, 等々力英美: ソーシャル・キャピタルと地域の力 沖縄から考える健康と長寿, 日本評論社, 2013.
- ⑤ 近藤克則: 健康格差社会—何が心と健康を蝕むのか, 医学書院, 2005.

*適宜 関連文献、資料を提示する。

5. 準備学習: 自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者相互によるディスカッションを行い、理解を深める。
毎回課題があるので、次回までに準備をすること。

6. 成績評価の方法:

- ・活動状況（評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ）50 点
- ・レポートの内容（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ）50 点
- ・合 計 100 点満点

7. 履修の条件: 特になし

8. その他: 授業は講義とゼミナール方式で行う。事前事後学習を行い参加すること。

科 目 名		臨床看護学特論Ⅰ（病態生理学領域）		担当教員：砂川 昌範	
科目名（英語）		Special Lectures for Clinical NursingⅠ			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	1～2	407	火7限目・木6限目
1. 授業の概要： 臨床看護学特論Ⅰでは、沖縄のケアリング文化を基盤とし、様々な健康レベルにある人を対象に健康増進および疾病予防、あるいは死に臨む人々のケアに関する理論・方法論を探究する。病態生理学領域では、医療及び福祉介護の現場で日常遭遇することの多い代表的な疾患あるいは病態の成因や仕組みに関する基礎的事項及び最新の知見を概説する。実務に役立つように知識を整理して理解してもらうことを目標とする。					
2. 到達目標： 臨床生理学分野の最新の知見を基に看護実践および指導のできる人材を育成することを目標にする。 1) 系統ごとの病因に関する基礎的事項を習得する。 2) 関心のあるテーマを病態生理学にアプローチし、分析できる。 3) 臨床生理学の知識を基盤として関心のあるテーマを簡潔に説明できる。					
3. 授業の計画と内容					
第1回	コース概要説明			砂川昌範	
第2回	循環器の臨床生理学1			砂川昌範	
第3回	循環器の臨床生理学2			砂川昌範	
第4回	呼吸器の臨床生理学1			砂川昌範	
第5回	呼吸器の臨床生理学2			砂川昌範	
第6回	腎・泌尿器の臨床生理学1			砂川昌範	
第7回	腎・泌尿器の臨床生理学2			砂川昌範	
第8回	内分泌・代謝の臨床生理学			砂川昌範	
第9回	小児の臨床生理学			中村真理子（琉球大学医学研究科）非常勤講師	
第10回	免疫アレルギーの臨床生理学			砂川昌範	
第11回	消化器の臨床生理学			砂川昌範	
第12回	神経・筋の臨床生理学1			砂川昌範	
第13回	神経・筋の臨床生理学2			砂川昌範	
第14回	テーマのプレゼンテーションおよび討論1			砂川昌範	
第15回	テーマのプレゼンテーションおよび討論2			砂川昌範	
4. テキスト・参考文献 ① 標準生理学：本郷利憲，等(監修)，医学書院（第8版），2018年 ② カラーイラストで学ぶ集中講義 生理学，メジカルビュー社（改訂2版），2014年 ③ Physiology and Pathophysiology of the heart (Third edition), Nicholas Sperelakis, Kluwer Academic Publishers (KAP), 1995 ④ Textbook of Medical Physiology, Guyton & Hall, 2006 ⑤ Clinical 生体機能学—生理学から症状がわかる—：當瀬規嗣，南山堂，2005 ⑥ Pathophysiology: The biologic basis for disease in adults and children. Kathryn L McCance 8 Sue E. Huether, Mosby 1997					
5. 準備学習：講義に関連する内容を予め参考図書を読み予習する。					
6. 成績評価の方法：授業への討議の参加，レポート，試験により総合的に評価する。 ・事前の資料準備と授業への参画度 20点 ・プレゼンテーション内容 40点 ・期末テスト 40点 ・合 計 100点満点					
7. 履修の条件：3分の2以上の講義出席をもって期末試験を受験できるものとする。					
8. その他					

科目名	臨床看護学特論Ⅱ（がん看護学領域）			担当教員：玉井なおみ 木村安貴 神里みどり（非常勤講師）	
科目名（英語）	Oncology NursingⅡ				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	1～2	看研5 3研2-12 (玉井なおみ) (木村 安貴)	火曜日・金曜日 7 限
1. 授業の概要： がん看護学領域では、がんの診断時期から終末期まで、がんとともに生きる人々とその家族への看護支援の現状と課題を幅広く理解し、全人的ケアおよび沖縄のケアリング文化に根ざした根拠のあるがん看護実践を探究する。さらに、がん対策基本法をはじめ国の施策と動向および社会的ニーズを踏まえ、がん看護領域に求められる援助方法と課題解決のための方略を探究する。実務経験のある教員が担当し、理論と実践を関連付けて理解を深める。 2. 到達目標： がんとともに生きる人々とその家族の体験を理解し、全人的ケアおよび沖縄のケアリング文化に根ざした根拠のあるがん看護実践を探究でき、がん看護領域に求められる援助方法と課題解決のための方略を探究することを目標とする。 3. 授業の計画と内容 第 1 週 がんサバイバーと家族が抱える身体的・心理社会的・就労等の現状と課題 1 (玉井なおみ) 第 2 週 がんサバイバーと家族が抱える身体的・心理社会的・就労等の現状と課題 2 (玉井なおみ) 第 3 週 がん患者の家族の心理社会的問題に対する援助方法論：意思決定支援、倫理的問題 (木村 安貴) 第 4 週 がん患者の家族の心理社会的問題に対する援助方法論：コミュニケーション技法 (木村 安貴) 第 5 週 治療後に機能障害を抱える患者と家族の体験と援助方法論：放射線療法・術後機能障害と看護 (木村 安貴) 第 6 週 治療後に機能障害を抱える患者と家族の体験と援助方法論：化学療法・内分泌療法と看護 (木村 安貴) 第 7 週 エビデンス・ベースド・プラクティスに基づいた症状マネジメント 1 (木村 安貴) 第 8 週 エビデンス・ベースド・プラクティスに基づいた症状マネジメント 2 (木村 安貴) 第 9 週 エビデンス・ベースド・プラクティスに基づいた症状マネジメント 3 (木村 安貴) 第 10 週 緩和ケア・終末期ケアにおける援助方法論 1 (玉井なおみ) 第 11 週 緩和ケア・終末期ケアにおける援助方法論 2 (木村 安貴) 第 12 週 症状緩和のための補完代替療法 1 (非常勤講師：神里みどり) 第 13 週 症状緩和のための補完代替療法 2 (玉井なおみ) 第 14 週 エビデンスに基づいた看護援助方法の開発 (木村 安貴) 第 15 週 まとめ (玉井なおみ、木村 安貴) 4. テキスト：・Joanne K. Itano, Karen N. Taoka (2005)／小島操子 監訳 (2007)：がん看護コアカリキュラム, 医学書院 ・Linda H. Eaton, Janelle M. Tipton (2009, 2011)／鈴木志津枝 監訳 (2013)：がん看護 PEP リソース 患者アウトカムを高めるケアのエビデンス, 医学書院 参考文献：必要に応じて国内外の最新の学術論文を資料として配布する。 5. 準備学習：毎回、課題を提示するので、次回までに準備すること。 6. 成績評価の方法： ・活動状況 50 点（評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ） ・レポートの内容 50 点（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ） ・合 計 100 点満点 7. 履修の条件：臨床看護学特論Ⅰ（がん看護学領域）を履修済みであること。 8. その他：授業は講義とゼミナール方式で行う。事前学習を行い参加すること。					

科目番号	科 目 名	臨床看護学特論Ⅱ（高齢者看護学領域）		担当教員： 永田美和子	
	科目名（英語）	Gerontological Nursing Ⅱ			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	1～2	研 218	授業終了後

1. 授業の概要：

加齢や障害により生活機能の低下した高齢者の生活適応に向けたセルフケア能力の回復や QOL を維持・向上を支援する看護方法の開発に必要な知識・技術を探求する。

2. 到達目標：

生活機能の低下した高齢者の生活適応に向けたセルフケア能力の回復や QOL を維持・向上を支援する看護方法の開発に必要な知識・技術について理解できる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週 ガイダンス

第 2 週 高齢者保健医療福祉制度・政策の変遷

第 3 週 高齢者へのケア：高齢者のサポートシステムの現状と課題

第 4 週 家族へのケア：家族のサポートシステムの現状と課題

第 5 週 地域へのケア：ソーシャルサポートの評価

第 6 週 高齢者看護学における看護の果たすべき役割と機能

第 7 週 認知症の方の支援：認知症高齢者を取り巻く状況 若年認知症者を取り巻く状況

第 8 週 認知機能障害に伴う生活機能障害と支援方法（1）：パーソンセンタードケア ユマニチュード

第 9 週 認知機能障害に伴う生活機能障害と支援方法（2）：タクティールケア

第10週 高齢者の認知・心理機能評価（演習）

第11週 高齢者の認知・心理機能評価（演習）

第12週 老化による社会的機能の評価

第13週 高齢者の生活の質の評価

第14週 沖縄県北部の健康課題について 文化を基盤とした生活支援方法

第15週 まとめ

4. テキスト：随時提示する。

5. 準備学習：担当者は事前に資料を作成して配布すること。

6. 成績評価の方法：

・プレゼンテーション

50 点

・レポートの内容

50 点

・合 計

100 点満点

7. 履修の条件：

なし

8. その他：

ディスカッション形式ですすめる。

各種研究会・研修会への案内を随時行う。

科 目 名	臨床看護学特論Ⅱ（母性看護学領域）			担当教員：小西清美、島田友子	
科目名（英語）	Advanced Maternal and Family Nursing II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2～3	看研 7(小西)	金曜日、6 限目

1.授業の概要：

母性看護学の対象に対する理論や方法論を踏まえ、根拠に基づいた効果的な看護実践を探究する。また、沖縄県のケアリング文化に根ざした地域における母子保健の課題、妊娠前から出産後まで継続した支援システムについて探究する。

2.到達目標：

① 女性（母性）における健康課題に関する根拠に基づいた効果的な看護実践を理解する。

② 様々な看護研究をとらえて自分自身の看護研究の課題解決の糸口を見出すことができる。

③ 看護の専門性を理解し、沖縄県の地域特性を踏まえた、妊娠前から育児期まで切れ目のない支援システムを探究し、高度助産実践能力を育てる。

3.授業の計画と内容

第 1 週 母性看護学特論Ⅱガイダンス

第 2 週 性周期が多重課題遂行に及ぼす影響について

第 3 週 女性及び周産期女性における「心地よいケア」の評価（1）

第 4 週 女性及び周産期女性における「心地よいケア」の評価（2）

第 5 週 女性及び周産期女性における「心地よいケア」の評価（3）

第 6 週 母親の子育て支援（幼児の身体意識と母親の子育て QOL）

第 7 週 母親の子育て支援（母親の子育てレジリエンス）

第 8 週 沖縄における妊娠・出産包括支援について（1）

第 9 週 沖縄における妊娠・出産包括支援について（2）

第 10 週 沖縄における妊娠・出産包括支援について（3）

第 11 週 女性及び周産期女性の健康課題に関する援助法の文献的検討（1）

第 12 週 女性及び周産期女性の健康課題に関する援助法の文献的検討（2）

第 13 週 女性及び周産期女性の健康課題に関する援助法の文献的検討（3）

第 14 週 女性及び周産期女性の健康課題に関する援助法の文献的検討（4）

第 15 週 母性看護学特論Ⅱの総括

4.参考文献：奈良貴史：ヒトはなぜ難産なのか、岩波科学ライブラリー197、2012 年、1200 円
各種母子関係学会誌 助産学会誌、母性衛生、女性心身医学誌等

5.準備学習：

授業は、講義、文献検討と質疑・討論を組み合わせて行う。文献検討の場合は、学生が要約してから授業にのぞみ、パワーポイントあるいは資料を用いて、プレゼンテーションを討論する形式をとる。そのため討論のための文献探索とその文献の準備が必要となる。

6.成績評価の方法：

・事前の資料準備と授業への参画度 80 点（評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ）

・課題レポートの内容 20 点（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ）

・合 計 100 点満点

7.履修の条件：臨床看護学特論Ⅰを履修済であること

8.その他：

科目番号	科 目 名	臨床看護学特論Ⅱ（小児看護学領域）		担当教員：松下聖子	
	科目名(英語)	Child and Family Health NursingⅡ			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2～3 名	看研 227	火曜日 5 限

1. 授業の概要：

小児看護がもつさまざまな課題を広い視野から理解し、子どもとその家族の健康保持・増進のための援助の方向性について探求する。また、小児看護の諸側面における適切な援助方法を探究し、その効果を査定する能力を修得する。

2. 到達目標：

子どもと家族の健康問題を把握し、健康の保持・増進に向けた支援について理解することができる
さまざまな状況にある子どもの支援について検討し、小児看護実践の方法を習得することができる

3. 授業の計画と内容

第 1 週 小児看護学特論Ⅱのガイダンス

子ども観の変遷について、時代背景による子どもの社会的な見方や扱い方について

第 2 週 社会における子どもの存在、(子どもの生活する環境について)

第 3 週 入院児を取り巻く状況（社会保障や経済的支援、法制度、在宅レスパイトサービス）

第 4 週 健康障害のある子どもの支援（小児看護の動向）

第 5 週 健康障害のある子どもの成長発達支援（演習）

第 6 週 健康障害のある子どもの成長発達支援（演習）

第 7 週 障害のある子どもへの支援（障害のある子どもの看護に必要な障害理解について）

第 8 週 障害のある子どもへの支援（医療的ケアとは、看護支援の現状）

第 9 週 健康障害のある子どもの成長発達支援（子どもの教育を受ける権利、特別支援教育：院内学級について）

第 10 週 健康障害のある子どもの成長発達支援（演習）

第 11 週 健康障害のある子どもの成長発達支援（演習）

第 12 週 健康障害のある子どもの成長発達支援（他職種連携、プレパレーション）

第 13 週 健康障害のある子どもの成長発達支援（先進医療と移植医療）

第 14 週 様々な状況下にある子どもへの支援について

第 15 週 まとめ（総合討論）

4. テキスト：

参考文献： 講義の中で適宜提示します

5. 準備学習：

文献の提示、レポート作成等の課題を提示するため、提出すること

6. 成績評価の方法：

・事前学習

30 点

・課題レポートの内容

20 点

・演習への参画

20 点

・プレゼンテーションおよびディスカッションの内容

30 点

・合 計

100 点満点

7. 履修の条件：臨床看護学特論Ⅰを受講していること

8. その他：

グループディスカッションを中心にすすめるため、事前学習を十分に行うこと

科目名	臨床看護学特論Ⅱ（精神看護学領域）			担当教員：○ 鈴木 啓子	
科目名（英語）	Psychiatric and Mental Health NursingⅡ				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2～3	看研 17(鈴木)	火曜日・金曜日 7 限 火曜日・金曜日 7 限

1. 授業の概要:

現在の精神保健医療福祉の動向と社会的ニーズを踏まえ、精神的健康問題を抱える人、その家族および集団に対して、精神看護学の基礎的な諸理論や知識を用いた看護介入方法または、治療的介入方法を講義と演習を通して探究する。また、この過程において患者の人権を擁護するための倫理的判断能力を培う。

2. 到達目標：

①精神保健福祉医療の現状と課題について理解する。
②精神的健康の維持・増進のための専門的援助技術の活用について検討する。
③精神的健康問題を抱える人々の人権を擁護するための臨床的判断について検討する。
④精神看護に関する最新の論文を批判的に読み込み、問題点や課題について検討する。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	コースガイダンス・精神保健医療福祉の動向と社会的ニーズ	(鈴木啓子)
第 2 週	沖縄県における精神保健医療福祉の現状と課題	(鈴木啓子)
第 3 週	認知行動療法—うつ病の患者を対象とした認知療法を用いた介入方法の実技演習—	(鈴木啓子)
第 4 週	SST・心理教育—患者および家族を対象とした介入方法の実技演習—	(鈴木啓子)
第 5 週	看護面接およびグループダイナミクスを活用した支援	(鈴木啓子)
第 6 週	精神科における危機介入・危険防止—攻撃や暴力の事例を想定した介入方法の実技演習	(鈴木啓子)
第 7 週	看護職のメンタルヘルス・専門看護師の活動	(上原勝子)
第 8 週	医療チームにおける看護専門職の役割と他職種との連携	(鈴木啓子)
第 9 週	精神医療看護福祉における倫理的看護問題と看護師の臨床判断 —倫理的ジレンマを感じる臨床の状況に関する事例検討—	(鈴木啓子)
第 10 週	精神保健看護の現状と課題に関する文献検討 1	(鈴木啓子)
第 11 週	精神保健看護の現状と課題に関する文献検討 2	(鈴木啓子)
第 12 週	精神保健看護の現状と課題に関する文献検討 3	(鈴木啓子)
第 13 週	精神保健看護の現状と課題に関する文献検討 4	(鈴木啓子)
第 14 週	精神保健看護の現状と課題に関する文献検討 5	(鈴木啓子)
第 15 週	精神看護学Ⅱのまとめ	(鈴木啓子)

4. テキスト：野末聖香編著（2004）「リエゾン精神看護—患者ケアとナース支援のために」医歯薬出版株式会社
参考文献：G.W.Start et.al.(2005)” Principles and Practice of Psychiatric Nursing"8th edition,MOSBY.
(安保寛明・宮本有紀監訳「看護学名著シリーズ—精神科看護—原理と実践」原著第 8 版)

5. 準備学習： 毎回、課題を課すので準備してくること。

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況（評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ）50 点
- ・レポートの内容（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ）50 点
- ・合 計 100 点満点

7. 履修の条件：臨床看護学特論Ⅰを履修していること。

8. その他：授業は講義とゼミナール方式で行う。事前事後学習を行い参加すること。

科 目 名		臨床看護学特論Ⅱ（在宅看護学領域）		担当教員：○ 大城 凌子・比嘉憲枝・武藤稲子	
科目名（英語）		Community Care Ⅱ		中本里美	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2～3	看研13（大城） 看研14（比嘉） 非常勤講師控室	月曜日・木曜日 7限 月曜日・木曜日 7限 講義前後 30分

1. 授業の概要

沖縄県の在宅療養の現状と課題について学び、在宅での暮らしを支援するケアのあり様について探究する。また、沖縄北部の地域特性や在宅看護の実際を学び、倫理的判断、臨床判断に基づき、健康課題を解決するための看護実践および地域での暮らしを支える在宅看護技術を探究する。

2. 到達目標

1）在宅看護に関する国内の現状および研究の動向を理解し、看護実践方法を理解する

2）過疎無医地区や社会的疎外状況にある人々への看護の課題を理解する。

3）地域での暮らしを支える在宅介護技術を修得し、看護実践に活かすことができる。

4）沖縄県北部地域の在宅看護の課題と今後の展望について自らの意見をまとめることが出来る。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	ガイダンス 在宅看護に関する最新の研究と動向	(大城凌子)
第 2 週	認知症に関する医学的アプローチとパーソン・センタード・ケア	(大城凌子)
第 3 週	小規模多機能、療養通所看護、グループホームなど新たな在宅看護の可能性	(大城凌子)
第 4 週	在宅・介護施設におけるケアの現状と課題	(大城凌子)
第 5 週	暮らしを支える在宅介護技術（キネステティック演習①）	(中本里美)
第 6 週	暮らしを支える在宅介護技術（キネステティック演習②）	(中本里美)
第 7 週	暮らしを支える在宅介護技術（キネステティック演習③）	(中本里美)
第 8 週	島嶼部・山間僻地における健康課題	(比嘉憲枝)
第 8 週	島嶼部・山間僻地における看護の実際（演習①）	(比嘉憲枝)
第 9 週	島嶼部・山間僻地における看護の実際（演習②）	(比嘉憲枝)
第 10 週	沖縄の路上生活者の施設や公園でのフィールドワーク（演習①）	(大城凌子)
第 12 週	沖縄の路上生活者の施設や公園でのフィールドワー（演習②）	(大城凌子)
第 13 週	病院・地域連携についてのフィールドワーク（演習③）	(大城凌子)
第 14 週	沖縄北部地域の在宅における看取りの現状と課題	(大城凌子)
第 15 週	コミュニティーナース・NP の活動の現状と課題	(武藤稲子)
第 16 週	沖縄北部地域の在宅看護の課題と今後の展望/まとめ	(大城凌子)

4. テキスト・参考文献：

「パーソン・センタード・ケア」トムキッドウッド

「フィールドワークの技法」佐藤郁也 新曜社

5. 準備学習：

毎回、課題を課すので準備してくること。

6. 成績評価の方法：

・授業への参画（討議 演習への積極的参加、予習、問題発見、プレゼンテーション）

50 点

・レポート（この科目を学んで、学生自身の研究や今後の看護実践にどう生かせるかをまとめる）

50 点

合 計

100 点

7. 履修の条件：

臨床看護学特論Ⅰを履修していること。

8. その他：

在宅看護に関連する事例について先進的な取り組みを国内外からの文献と演習、フィールドワークを重ねて討議する。研究課題の絞り込みなどにつながる科目なので、学習環境を整えて主体的に関わって欲しい。

※シラバスは

クラス

の状況、講義の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。

科 目 名	臨床看護学特論Ⅱ（公衆衛生看護学領域）			担当教員：田場真由美 宇座美代子(非常勤)	
科目名（英語）	Public Health NursingⅡ				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	1～2	看研 15	火曜日・金曜日 7 限

1. 授業の概要：
臨床看護特論Ⅰの公衆衛生看護学で学んだ理論と方法、保健医療福祉の連携とシステム化、社会資源開発と施策化等を文献検討し、公衆衛生看護学実例の現状・課題の分析を踏まえ、看護実践を探究する。

2. 到達目標：
① 地域における保健医療福祉の現状と課題について理解する。
② 健康の維持・増進のための専門的援助技術の活用について検討する。
③ 公衆衛生看護に関する最新の論文を批判的に読み込み、問題点や課題について検討する。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	コースガイダンス、わが国の保健医療福祉の現状と課題
第 2 週	沖縄県における保健医療福祉の現状と課題①
第 3 週	沖縄県における保健医療福祉の現状と課題①
第 4 週	対象地域の地域診断①
第 5 週	対象地域の地域診断②
第 6 週	対象地域の地域診断③
第 7 週	健康の維持・増進のための専門的援助技術に関する文献検討①
第 8 週	健康の維持・増進のための専門的援助技術に関する文献検討②
第 9 週	健康の維持・増進のための専門的援助技術に関する文献検討③
第 10 週	公衆衛生看護の現状と課題に関する量的文献検討①
第 11 週	公衆衛生看護の現状と課題に関する量的文献検討②
第 12 週	公衆衛生看護の現状と課題に関する量的文献検討③
第 13 週	公衆衛生看護の現状と課題に関する質的文献検討①
第 14 週	公衆衛生看護の現状と課題に関する質的文献検討②
第 15 週	公衆衛生看護学Ⅱのまとめ

テキスト：

① Karen Glanz, Barbara K. Rimer, Frances Marcurs Lewis, 曾根智史, 湯浅資之, 渡部基, 鳩野洋子(監訳)：健康行動と健康教育-理論 研究 実践 医学書院, 2014.

② エリザベス T.アンダーソン, ジュディス・マクファーレーン, 金川克子, 早川和生(監訳)：コミュニティアズ・パートナー医学書院, 2009.

③ 津村智恵子, 上野昌江：公衆衛生看護学 第2版, 中央法規出版, 2012.

④ イチロー・カワチ, 等々力英美：ソーシャル・キャピタルと地域の力 沖縄から考える健康と長寿, 日本評論社, 2013.

⑤ 近藤克則：健康格差社会—何が心と健康を蝕むのか, 医学書院, 2005.

＊適宜 関連文献、資料を提示する。

5. 準備学習：自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者相互によるディスカッションを行い、理解を深める。毎回課題があるので、次回までに準備をすること。

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況（評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ）50 点
- ・レポートの内容（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ）50 点
- ・合 計 100 点満点

7. 履修の条件：臨床看護学特論Ⅰを履修していること。

8. その他：授業は講義とゼミナール方式で行う。事前事後学習を行い参加すること。

科 目 名		臨床看護学特論Ⅱ（病態生理学領域）		担当教員：砂川 昌範	
科目名（英語）		Special Lectures for Clinical NursingⅡ			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	1～2	407	火7限目・木6限目
1. 授業の概要： 臨床看護学特論Ⅱでは、沖縄のケアリング文化を基盤とし、様々な健康レベルにある人を対象に健康増進および疾病予防、あるいは死に臨む人々のケアに関する理論・方法論を探究する。臨床看護学特論Ⅰの病態生理学領域で学んだ知識を基盤として興味ある国内外の症例報告を基に病態について考察し、時間軸から病態の推移を分析できる能力を培う。分析の結果から導かれる看護への応用について学ぶ。さらに、探究した課題をレポートにまとめ看護指導者としての教授方法を実践により修得する。					
2. 到達目標： 病態生理学分野の最新の知見を基に看護実践および指導のできる人材を育成することを目標にする。 1) 自ら論理的に病態生理学関連の論文を読み込み、抄読会で問題点や課題を提示できる。 2) 臨床場面でみられる課題について病態生理学を基盤として考察できる 3) 臨床場面でみられる課題に対する解決法を病態生理学的視点から構築できる。					
3. 授業の計画と内容					
第1回	コース概要説明			砂川昌範	
第2回	病態生理学関連文献検索方法1			砂川昌範	
第3回	病態生理学関連文献検索方法2			砂川昌範	
第4回	病態生理学関連文献の整理方法1			砂川昌範	
第5回	病態生理学関連文献の整理方法2			砂川昌範	
第6回	病態生理学に関連したテーマの構築1			砂川昌範	
第7回	病態生理学に関連したテーマの構築2			砂川昌範	
第8回	テーマに即した論文の渉猟1			砂川昌範	
第9回	テーマに即した論文の渉猟2			砂川昌範	
第10回	データおよび知見の整理1			砂川昌範	
第11回	データおよび知見の整理2			砂川昌範	
第12回	テーマのプレゼンテーションおよび討論1			砂川昌範	
第13回	テーマのプレゼンテーションおよび討論2			砂川昌範	
第14回	テーマのプレゼンテーションおよび討論3			砂川昌範	
第15回	振り返りと総括			砂川昌範	
4. テキスト・参考文献 ①バイオサイエンスの統計学，南江堂、1990年 ②StatView 多変量解析，オーエムエス出版，2013年 ③Pathophysiology: The biologic basis for disease in adults and children. Kathryn L McCance 8 Sue E. Huether, Mosby 1997					
5. 準備学習：講義に関連する内容を予め参考図書を読み予習する。					
6. 成績評価の方法：授業への討議の参加，レポート，試験により総合的に評価する。 ・事前の資料準備と授業への参画度 20点 ・レポート内容 40点 ・プレゼンテーション内容 40点 ・合 計 100点満点					
7. 履修の条件：3分の2以上の講義出席をもって期末試験を受験できるものとする。					
8. その他					